

研究課題名	COVID-19パンデミックが他の急性感染症の動向に与えるインパクトとその要因分析
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 感染管理室・小児科 氏名 長澤 正之
研究期間	(西暦) 2021年6月 ~ 2022年3月
研究の意義・目的	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、全世界に拡大して、パンデミックとなり、全世界の政治・経済に甚大なる影響を及ぼし、海外渡航は著しく制限され、また人々の行動範囲や生活様式も著しい変化・制限を強いられています。このような社会・経済活動の変容は他の急性感染症にも影響を及ぼすことが推察され、2019年、2020年シーズンのインフルエンザ流行が全世界的に観測されなかったことは、その一例です。急性感染症においてもどのような影響が及んでいるかを検討することは、該当する感染症の感染伝播様式に関する重要な情報を与えてくれるのみならず、今後の感染対策を考えるうえで重要な知見になると考えられます。
研究の方法 (対象期間含む)	方法:後ろ向き調査研究 対象期間・対象・調査項目:2018年4月から2021年3月の期間に、当院で採取された血液培養検査・喀痰培養検査および2012年4月から2021年3月の期間に当院で施行された尿中肺炎球菌抗原検査の結果。2018年4月から2021年3月の期間における当院における感染対策用に使用された手指消毒用アルコール・マスクおよびガウン・エプロンの使用量、および同期間内に当院で使用された抗菌薬量。また、同期間における当院の入院患者数・救急外来受診者数・外来受診者数の動向。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む)  ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目  ③利用する者の範囲  ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①後ろ向き調査研究であり、臨床検査データベースより情報を収集し統計学的解析を行う ②調査項目:検体採取日・血液培養/喀痰培養/尿中肺炎球菌抗原検査結果・患者年齢・手指消毒用アルコール・マスクおよびガウン・エプロンの使用量、抗菌薬使用量、入院患者数・救急外来受診者数・外来受診者数 ③感染管室④感染管理室・小児科 長澤 正之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 感染管理室・小児科 氏名 長澤 正之  TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525